

RECO2 カーボンリサイクルフロアタイル

施工マニュアル・推奨接着剤

一般施工／耐水施工 接着工法

仕上がりは床材だけでなく、下地、接着剤、施工環境、施工方法および養生の組合せで決まります。条件が整わない場合は施工を開始せず、施工中に異常を認めた場合はその区画の作業を中止してください。

1. 適用範囲

本マニュアルは、屋内の平床面に全面接着施工するビニル床タイルの標準施工に適用します。置敷き、クリック、導電・帯電防止、耐薬品、屋外、常時水掛かり、床暖房、階段、壁面その他の特殊仕様は、製品別仕様に明示がある場合を除き対象外です。

2. 標準施工フロー

工程	主な確認・作業	次工程へ進む条件
1. 施工前確認	用途、製品、数量、ロット、下地、荷重、温湿度、工程を確認	仕様が確定している
2. 受入れ・保管	品番・外観確認、水平保管、現場になじませる	結露・変形がない
3. 下地検査	水分、平滑性、強度、ひび割れ、汚染、たわみを確認	所定基準を満たす
4. 下地補修・清掃	研削、補修、除塵、脱脂、乾燥	平滑・強固・清浄
5. 割付け・仮並べ	基準線、貼り方向、端部寸法、色柄を確認	割付けが確定
6. 接着剤塗布	指定ごて、塗布量、オープンタイムを管理	適正な粘着状態
7. 貼付け・圧着	基準線から貼付け、全面圧着、再圧着	浮き・目違いがない
8. 養生	歩行、荷重、水、温度変化を制限	接着剤が完全硬化
9. 完了検査	外観、目地、端部、接着、清掃、記録を確認	引渡し可能

3. 使用工具・測定器

- ・コンクリート下地の水分測定器 ※ケット科学研究所製 高周波水分計 HI-540／520-2 または同等の測定器
- ・温湿度計、床面温度計、直定規、水平器、スケール、墨出し器具
- ・研削機、スクレーパー、集じん機、清掃用具、下地補修用具
- ・接着剤指定のくし目ごて・ローラー、床用ローラー、ハンドローラー
- ・カッター、定規、加温器具（製品別仕様で許可される場合のみ）
- ・保護手袋、保護眼鏡、防毒・防じんマスク、安全靴その他SDSで指定する保護具

4. 施工前確認・材料の受入れ・保管・施工前養生

床施工の不具合の多くは、不十分な下地準備に起因します。不陸や粗い下地は、そのまま仕上げ床に影響します。施工者は、施工前に現場および下地が本手順の要求事項を満たしていることを確認の上、下地に適した接着剤を選定してください。

1. 納品時に品番、色番、数量、ロット、梱包の破損を確認してください。
2. 開梱後、反り、著しい色差、汚れ、表面異常を確認してください。
3. 材料は平坦な場所へ水平に置き、直射日光、水濡れ、結露、高温、低温を避けてください。
4. 施工48～24時間以上前に、製品を施工場所の温湿度（推奨15～29℃ 相対湿度は85%を超えないこと）になじませ、材料表面・裏面に結露がないことを確認してください。
5. 施工前・施工中・施工後は、部屋を通常居住時の温度に保ってください。施工時の室温および床面温度は15～29℃とします。過度に高い、または低い室温や床面温度は、製品の膨張や収縮を引き起こし、施工不良を生じる可能性があります。この際生じた欠陥は保証の対象外となりますのでご注意ください。
6. 製品の反りがある場合は、製品に傷がつかないように平滑面を保護した後、製品を箱から取り出し、表面を下向きにした状態で積載し、室温(10℃以上)になじませて養生してください。
7. 複数ケースを混ぜて仮並べし、色柄、光沢、貼り方向を確認してください。

5. 施工環境の判定

状態	判定	対応
室温・床面温度 15℃以上	標準施工可	一般工法または条件に適合する工法を採用
5℃以上15℃未満	条件付き	製品別表で低温施工可とした反応形接着剤を使用し、養生時間を延長
5℃未満	施工不可	加温して床面・材料・接着剤を安定させ、再測定
結露、漏水、継続的な湿気上昇	施工不可	原因を解消し、乾燥後に再判定
強い直射日光・局所加熱	条件不適合	遮光・温度均一化後に施工
強い通風・急速乾燥	条件不適合	通風を調整し、オープンタイムを現場確認
施工後に急激な温度変化が予想される	条件不適合	温度を安定させ、養生計画を見直す

6. 下地検査

6.1 下地水分

コンクリート・モルタル下地は、高周波水分計 HI-540／520-2(※) の D.MODE（厚さ40mm程度、温度AUTO）または同等の方法で、外周部、開口部、柱回り、湿気が疑われる箇所を含む複数地点を測定し、位置と値を記録します。

※ケット科学研究所社製

D.MODE測定値	水分グレード	施工方法の目安
440未満	I	一般工法
440以上620未満	IIa	耐湿工法
620以上	IIb	施工不可。下地が乾燥するまで施工しない
数値にかかわらず漏水・結露・継続的湿気上昇あり	—	施工不可。原因解消後に再判定

6.2 平滑性・構造安定性

次の事項を確認してください。

- ・不陸、うねり、段差、欠損、ひび割れ、目地、継目、釘・ビス頭の突出がないこと。
- ・たわみ、振動、床鳴り、パネルの動きがないこと。

- ・既存床材がある場合、浮き、膨れ、剥がれ、柔らかさ、ワックス、コーティングがないこと。
- ・不陸や継目は床材表面に現れるため、仕上がり基準に応じて平滑に補修すること。

6.3 表面強度・清浄性

次の事項を確認してください。

- ・粉化、レイタンス、脆弱層、雨打たれ、エフロレッセンス（白華現象）等がないこと。
- ・ワックス、油脂、塗料、既存接着剤、アスファルト、防腐剤、防蟻剤、インク、マーカー、チョーク、ゴム、洗剤、薬品、シーリング材等を完全に除去すること。
- ・補修材、プライマー、表面強化材を使用する場合は、床材および接着剤との適合性を試験施工で確認すること。

7. 下地補修・清掃

1. ひび割れ、欠損、不陸、段差を適切なパテ（補修材）で修正してください。
（推奨：推奨：ヤヨイ化学工業株式会社 アースタック／アースシール速硬）
構造的な動きがある場合は、先に構造原因を解消してください。
2. 脆弱層、塗膜、ワックス、既存接着剤等を研削・除去してください。
3. 補修材を所定時間硬化・乾燥させ、水分、平滑性、強度を再確認してください。
4. 集じん機で除塵し、油分等がある場合は適切に脱脂してください。水拭きした場合は完全に乾燥させてください。
5. 非吸水性または未知の下地は、標準施工を行わず、製品別仕様に適合表示がある場合のみ試験施工を行ってください。

8. 割付け・墨出し・仮並べ

1. 部屋寸法、壁の出入り、柱、開口部、見切り位置を実測してください。
2. 部屋の中央を基準として長手・短手方向の基準線を設定してください。
3. 壁際に製品幅の1/2以下の細い端材が極力入らないよう割付けを調整してください。
4. 製品裏面の矢印、流し貼り、市松貼り等の指定を確認してください。
5. 数ケースを混ぜて仮並べし、色柄・光沢の偏り、目地の通り、納まりを確認してください。
6. 切込みに時間を要する場所は、接着剤塗布前に可能な範囲で加工・段取りを行ってください。

9. 接着剤の準備・塗布

9.1 接着剤の選定

工法・施工箇所状況	水分 グレード	施工場所	推奨接着材
一般工法	I	湿気の影響を受けない標準的な平場床	アクリル系エマルジョン形接着剤
耐水工法	Ila	床施工後、湿気の影響を受けやすい平場床（水廻り、トイレ、土間、地下階など）	ウレタン樹脂系接着剤

垂直面への施工	—	階段のけ込みなど	初期タック力に優れる接着剤 (アクリル系エマルジョン形接着剤等)
低温時の施工		施工時の温度が低温 (10°前後)となる施 工環境下	ウレタン樹脂系接着剤

- ・下地水分、下地種別、温度、荷重に適合する接着剤を選定してください。
- ・製品名、製造ロット、有効期限、保管状態、容器の異常を確認し、SDSと容器表示を確認してください。
- ・一液型は、分離・沈降がある場合、容器表示に従い均一になるまで攪拌してください。
- ・接着剤を水や溶剤で希釈しない。異なる種類・銘柄を混合しないでください。

9.2 接着剤の塗布

1. 接着剤毎に指定されたくし目ごてを使用し、角度を一定に保って均一に塗布してください。
2. 貼付可能時間内に貼り終わられる面積だけを区画して塗布してください。
3. 温度、湿度、通風、下地吸水性を考慮し、接着剤表面の状態を触指等で確認してオープンタイムを判断してください。
4. オープンタイム不足、貼付可能時間超過、表面皮張り、異物混入が生じた部分には貼り付けしないでください。
5. 壁際、柱回り、設備回り等の切込み部は、作業時間に合わせて塗布区画を分けてください。

10. 貼付け・圧着

1. 基準線から順に貼り進め、タイルを無理に押し込んだり圧縮した状態で納めたりしないでください。
2. 目地の通り、段差、方向、柄、接着剤の付着を随時確認してください。
3. 貼付け後、30分以内に床用ローラー（45Kgローラー）で縦横方向から全入念に面を圧着してください。
4. 端部、壁際、切込み部、柱回りはハンドローラー等で入念に圧着してください。
5. 接着剤別要領に再圧着の指定がある場合は、指定時間内に再圧着してください。
6. 床材表面に付着した接着剤は、硬化前に接着剤の指定方法で除去してください。

11. 施工中に異常を認めた場合

1. 該当区画の接着剤塗布・貼付けを直ちに中止してください。
2. 異常の範囲を区画し、歩行・搬入を制限してください。
3. 床材、下地、接着剤、温湿度、施工時刻を記録し、写真を撮ってください。
4. 原因が特定できない状態で上貼り、注入、加熱等の応急処置を行わないでください。
5. 原因を除去し、下地・材料・接着剤の条件を再確認してから再開してください。

12. メンテナンス

- ・定期的に掃き掃除・掃除機掛けを行ってください。ほこりは研磨材のように作用するため、床をほこりのない状態に保つことで、仕上げ層と摩耗層の寿命を延ばせます。
- ・屋外入口には足拭きマットを設置し、室内に持ち込まれる汚れを減らしてください。
- ・回転ブラシ掃除機は使用しないでください。使用する場合は回転ブラシをオフにしてください。
- ・家電や重い家具を移動する際は、床保護のためパーティクルボード等の硬質ボードを敷いてください。

- 家具にはフェルト保護材を使用し、へこみを軽減させてください。一般的に重い物ほど広い床保護材が必要で、直径25 mm以上のフェルトパッドを推奨します。
- キャスターは床を傷める可能性があります。使用する場合は、可能な限り幅広の車輪を選んでください。
- 床材を長時間の直射日光にさらさないでください。日射が強い時間帯はカーテンやブラインドで直射日光を最小限にします。過度な高温は弾性床材に適さないため、空き家では自然換気または定期的な空気の入れ替えを検討してください。
- 床材にワックスをかけたり、油性吸着剤付きのモップ等を使用したりしないでください。床表面は非常に緻密で非多孔質であるため、ワックスが浸透せず、黄変や汚れの蓄積の原因となります。非多孔質性自体が、摩耗や汚れに対する保護性能を備えています。

株式会社TBM

URL. <https://tb-m.com/>

RECO2 カーボンリサイクルフロアタイル
施工マニュアル・推奨接着剤

2026.8 A1版